



三月になり春の訪れを感じるようになりました。車のフロントガラスから差し込む日差しは温もりを超えて暑さすら感じます。まだ三月洵にもかかわらずもうすっかり季節が変わったようですね。

思えばこの冬は例年に増して暖かく、まるで二月を飛ばして三月が続いているかのようです。最も寒い時が妙に暖かい、こんな時つい不安に思うことはありませんか? 「良からぬ事が起きるのでは」、「大地震が起きそうだ」そう“不吉な予感”です。この予感、何ら明確な根拠や因果関係があるとは思えません。まさに弱い心の現われ、未知の恐怖への心の迷いから生じるのです。これを「迷心」と言います。情報が錯そうする中、何が真実で何が偽かも判らず「迷心」に振り回され大事な物を見失ってはいませんか?

今、何ができるか、何をすべきかをしっかりと見極めることが大切です。寒い冬もあれば暖冬もある、地震も来る時は来る、唯それだけのこと、未だ知り得ない先の事を迷うより一足先に来た春を喜び、新たに芽吹く自然の命に目を向ければ、どんな迷いも不安もそっと包み取り感謝の気持ちに変えてくれる。そうありがたいものですね。

《本年秋までの当院法要・行事のご案内》

★永代経★



今年も早いものでもう永代経を厳修する時節となりました。皆様、お誘い合わせの上、どうぞお集まり下さい。



- 日時 4月25日 午前10時半より(観無量寿経)
正午 おとき(食事)
午後 1時半より(阿弥陀経・正信偈同朋奉讃)
- 説教 勅使 英照 師

【永代供養?】亡き人を手篤く供養したい一心の願いによるものだと考えられます。そのためにまとまった懇志金を進納し、末永くお寺が供養していくと捉えられているのが現状のようです。では単に僧侶に読経さえしてもらえば亡き人の供養になるのでしょうか。真の供養とは亡き人をご縁として聞法し、み教え(お経)に出遭うことにより自らの命に目覚めていくこと、真実への尊いお導きとして拝み頂いていく事です。聞法の場であるお寺が末永く存続し、死者生者共に供養されて行くことを願う法要が永代経法要なのです。